

おかげさまで、あかざわ小児科は5周年を迎えました。

## 12歳以上の小児への新型コロナワクチン接種について

～日本小児科学会の考え方と日本小児科医会の提言～

5月31日にファイザー社製の新型コロナワクチンの添付文書で接種対象者がこれまでの「16歳以上の者」から「12歳以上の者」に改訂され、これを受けて6月1日付で厚生労働省の予防接種実施要項上も「12歳以上の者」に変更されました。モデルナ社製ワクチンの対象は「18歳以上」です。

<日本小児科学会の考え方(6月16日)>

1. 子どもに関わる業務従事者等へのワクチン接種が重要であると考えます。
2. 子どもへのワクチン接種の考え方
  - 1) **重篤な基礎疾患のある子どもへの接種**: 重篤化が危惧されるので、ワクチン接種がそれを防ぐことが期待されます。しかし、高齢者に比べて若年者の方が、特に2回目接種時に副反応の出現頻度が高い(例:37.5℃以上の発熱は70代約10%、50代で約30%、20代で約50%)であるため、ワクチン接種を検討する際には本人および養育者に十分な接種前の説明と接種後の健康観察が必要であると考えます。
  - 2) **健康な子どもへの接種**: 12歳以上の健康な子どもへのワクチン接種は意義があると考えています。子どもへのワクチン接種は、先行する成人への接種状況を踏まえて慎重に実施されることが望ましく、また、接種にあたってはメリットとデメリットを本人と養育者が十分に理解していること、接種前・中・後におけるきめ細かな対応を行うことが前提であり、できれば個別接種が望ましいと考えます。

『最近イスラエルや米国などから、若年男性におけるワクチン接種後の心筋炎の発症が報告されています。ワクチンとの因果関係やその臨床像・重症度についても、まだ十分な情報は得られていませんが、学会としてこの後も情報を収集し発信していきます。』とあります。

<日本小児科医会の提言(6月16日)>

「12歳以上の小児を対象とした新型コロナウイルスワクチン接種にあたっては、保護者や本人への丁寧な対応が可能な個別接種を基本とし、集団接種を行う場合は、リスクをできる限り軽減するための対策と対応を十分に整備したうえで実施すること。」

日本小児科医会は、『新型コロナウイルス感染症小児例の特徴や、ワクチン接種による小児期特有の反応などを念頭においたうえで、本ワクチン接種の可否および接種体制の選択を決定すべきです。小児への感染の多くが保護者等からの家族内感染、園・学校の教職員等からの感染など周囲の大人からの感染であることから、重症化しやすい高齢者、基礎疾患を持っている方に続いての接種順位に、小児に感染を上げやすい保育士・教職員に加えて保護者世代の若い年齢層を組み入れて頂くことが小児への感染機会の軽減につながります。』とし、①学校等での集団接種、②かかりつけ医による個別接種、③集団接種・個別接種の併用の場合とでそれぞれメリット、デメリット、実施すべき対策を提示しています。

出典:日本小児科学会HP『新型コロナウイルス～子どもならびに子どもに接する成人への接種に対する考え方～(2021年6月16日)』、日本小児科医会HP『12歳以上の小児への新型コロナウイルスワクチン接種についての提言(令和3年6月16日)』

## ファイザー製ワクチン12～15歳への第Ⅲ相試験:効果率100%

The England Journal of Medicine誌の5月27日号に、米国・シンシナティ小児病院のRobert W. Frenck Jr氏らが、進行中の第Ⅲ相国際無作為化プラセボ対照試験の結果を報告しました。12～15歳の被験者を2群に分けて、ファイザーワクチンを21日間隔で完了した1,118例と、偽薬を21日間隔で完了した1,102例について、2回目接種後7日以降の新型コロナウイルス発症予防効果を比較しました。本物のワクチンを接種した群で発症がなかったのに対し、プラセボ群では16例発症し、ワクチン効果率は100%(95%CI: 75.3～100)でした。中和抗体の幾何平均値は16～25歳群より12～15歳群の反応が大きかったことが示されました。副反応については注射部位痛(79～86%)、疲労感(60～66%)、頭痛(55～65%)があったものの、主として一過性で軽度～中等度までであり、重篤な有害事象はなかったとしています。

出典:ケアネットHP『ファイザー製ワクチン、12～15歳への第Ⅲ相試験結果/NEJM』、The New England Journal of Medicine June 26, 2021 『Safety, Immunogenicity, and Efficacy of the BNT162b2 Covid-19 Vaccine in Adolescents 』

# 日本脳炎ワクチンが少し流通するかもしれません。

日本脳炎ワクチンは下記の優先条件で、ワクチンが確保ができてからの接種になっています。

- ①今からI期の1回目・2回目の方
- ②来年早々までに定期接種の期限を迎える方
- ③2003年(平成15年)度生まれで通知が届いた特例対象者の方

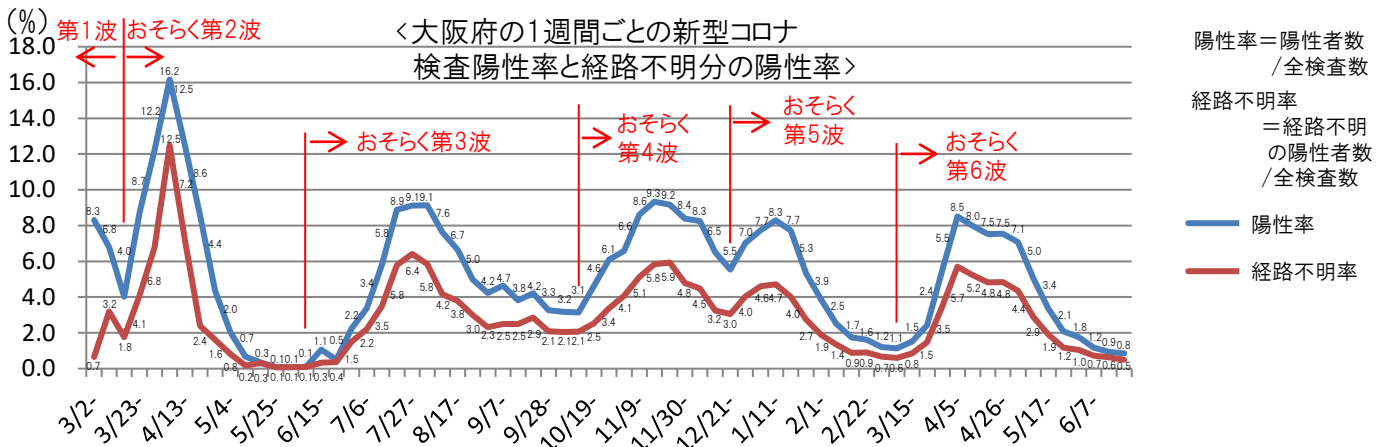
本格的な出荷再開は12月に見込まれる(当初は来年とありました)のですが、製造中であった製品原液について、製造工程中および製造完了後の品質試験の結果、品質に問題がないことが確認され、2021年7月から9月にかけて、一時的な製品出荷が可能になったと販売元から連絡がありました。ただ、厚生労働省通知などにより、供給が安定するまでの間、結局は上記の条件が必要になりそうです。

出典：田辺三菱製薬HP『乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン「ジェービックV」の供給について 2021年6月』

## 当科採用のムンプスワクチンはかなり手に入りにくい状態です

当科採用の武田薬品のおたふくかぜワクチン「タケダ」の製造工程の不具合で、2021年10月末まで欠品の予定です。他社の製品がたまに少量入ることがあります。完全予約で入手できてから接種となります。

## 大阪府の新型コロナウイルス感染症陽性率・経路不明率、改善

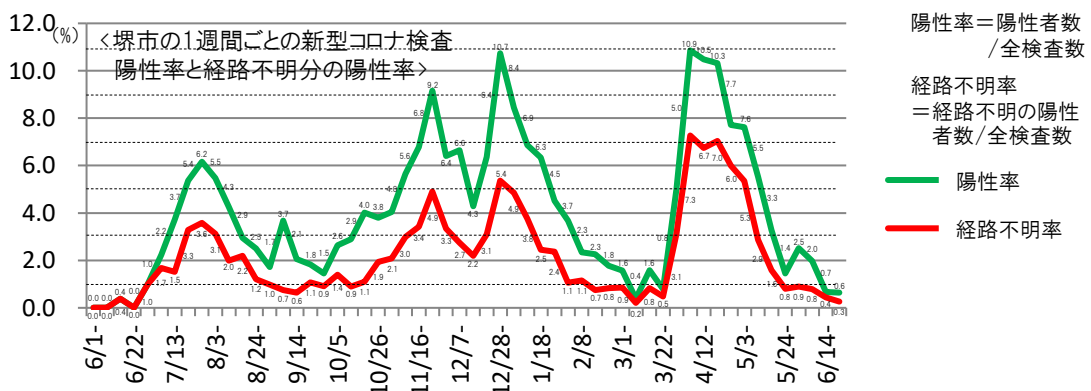


大阪府の新型コロナ検査陽性率・経路不明率は今のところ、低率で済んでいます。  
出典：大阪府HP『大阪府の最新感染動向 最終更新 2021/6/27』

## 堺市の新型コロナウイルス感染症陽性率、低率に

堺市の陽性率や経路不明率は4月半ば以降、段々と改善しており、一旦低率になっています。

出典：堺市危機管理室 Twitter 最終更新 2021/6/27



車待機方式を継続中

木曜日の夕方の小児のワクチン接種専用枠を一時休止中

6月17日から7月15日の木曜日の16:45から17:00の小児のワクチン接種専用枠は休止中です。

大人の風しん第5期定期接種の抗体検査・予防接種 受付中

7月・担当医の変更

31日(土) 片桐→赤澤